

①

ケイちゃん 消えない雲



原作者：吉村大作

作画：ユリヤ・ボンダレンコ



ケイちゃんけいちゃんは毎朝まいあさ、仕事しごとに出でかけるお父おとうさんを見み送おくっていました。

②





ある夏の朝、それは8月6日のごとでした。

ケイちゃんの街「広島」に、小さな黒くて丸いものが落ちてきました。

「あれはなんだ？」空を見た人たちが言いました。

3





そのあとすぐ、世界中に聞こえそうな爆発音が

「ドゴオオオーン」と鳴り響き、

街を全て覆い尽くす、大きな大きなキノコ雲が現れました。

④





街は一瞬にして消え、家も学校も病院もなくなりま
した。

街は跡形もありません。

核兵器という、とても怖ろしい爆弾が落とされたの
です。

5





ケイちゃんは奇跡的に無事でしたが、川には焦げた
人が浮かび、ケイちゃんのところにも「みず…、み
ずをくれ」と肌が焼けただれた人がやってきました。

その人たちは救われませんでした。

そして、ケイちゃんは家族と会えませんでした。

⑥





たった一つの核兵器が十万人を超える命を奪いまし
た。

また、核兵器が落ちた後に降った黒い雨は、多くの
人々を重い病気で苦しめました。





やがて戦争は終わりに、ケイちゃんはおばあちゃんになりました。

すでに広島ひろしまの街まちは綺麗きれいに戻もどりました。

核兵器かくへいきを落おとされたことが信じしんじられないくらいです。

8





しかし、明るく晴れた日も、ケイちゃんの心はずつ
とキノコ雲で曇っています。

あの時、死んでしまった人も、生き残った人も、そ
の悲しみは何十年経っても消えていません。





ケイちゃんは今、核兵器の怖ろしさを世界中の人々に伝えていきます。

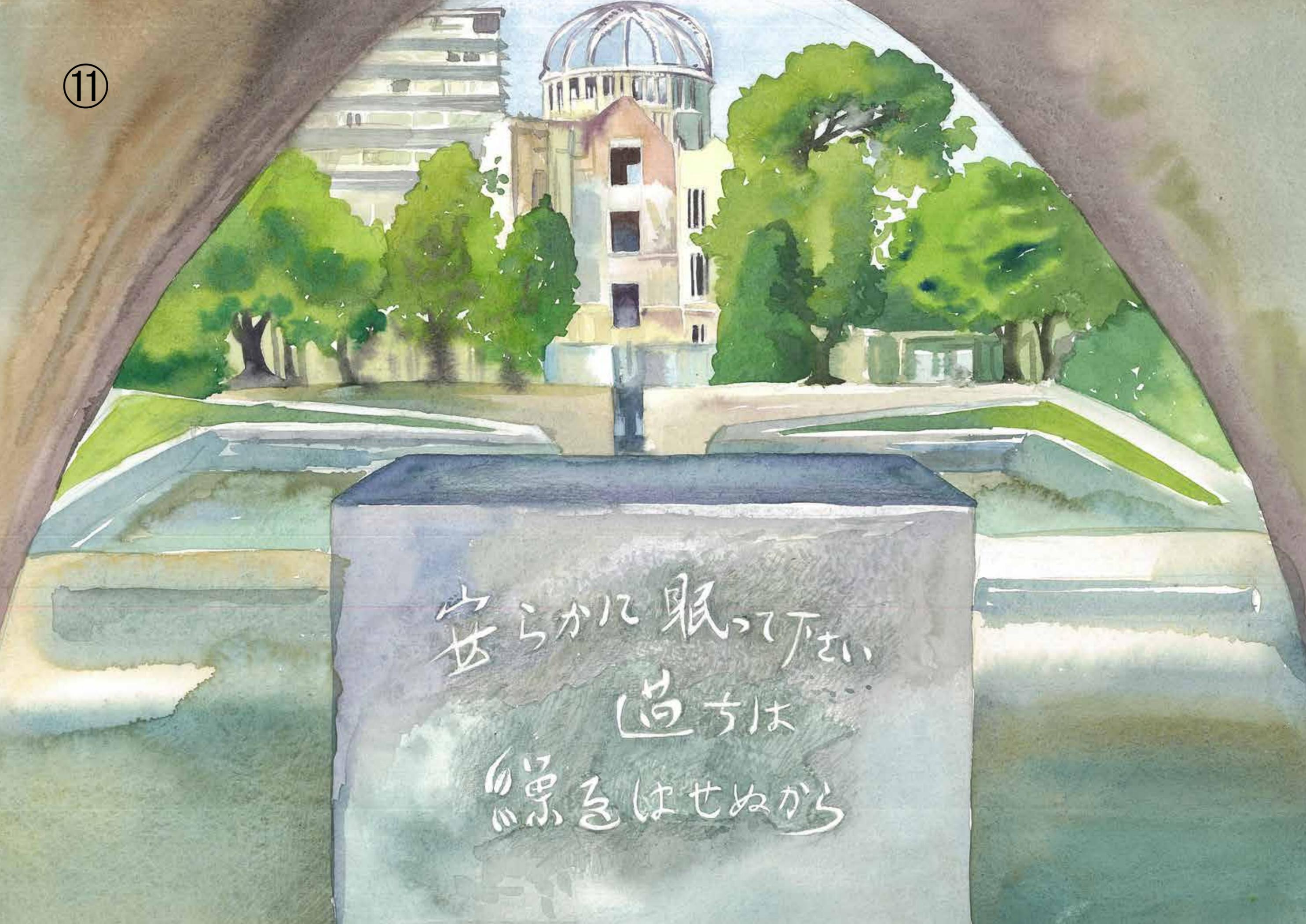
核兵器を使う戦争が起きたら、世界中の人々が死んでしまうからです。





核兵器かくへいきを使うつかなんて、もう二度と繰返くりかえしてはなりません。

それがケイちゃんのたった一ひとつの願ねがいです。



安らかに眠って下さい
過ちは
繰返しませぬから



世界中せかいじゅうの人たちひとが笑顔えがおでありますように。

おしまい。





ケイちゃんの「消えない雲」

今日は、ケイちゃんという8歳の女の子のお話をします。

ケイちゃんの住む日本では戦争が起きていました。